

## 『PRTR大賞2008』 選考結果

主催：(社)環境情報科学センター

後援：経済産業省、環境省、(独)製品評価技術基盤機構、(社)日本化学会、(社)日本水環境学会、  
(社)大気環境学会、(社)環境科学会、(社)化学工学会、日本環境化学会、日本リスク研究学会、  
(財)世界自然保護基金ジャパン、(株)化学工業日報社、日経エコロジー、  
日経BP環境経営フォーラム (順不同)

PRTR大賞は、化学物質管理とリスクコミュニケーションを積極的に推進している事業者や事業所を顕彰するため、環境情報科学センターが平成16年に創設した表彰制度です。

5回目の開催となった今年度は、計16件の応募をいただきました。選考委員による第1次審査(書類審査)、第2次審査(ヒアリング・現地調査)の結果、大賞候補4件、PRTR奨励賞7件、PRTR特別賞3件が選出されました。さらに、大賞候補者については、会場審査員と選考委員の投票による大賞選考会を行った結果、PRTR大賞1件、PRTR優秀賞・審査員特別賞1件、PRTR優秀賞2件が決定しました。

### (PRTR大賞2008選考委員)

委員長 安井 至 (科学技術振興機構)

委員 有田芳子 (主婦連合会)、亀屋隆志 (横浜国立大学)、北野 大 (明治大学)、  
小島正美 (毎日新聞社)、神保重紀 (日経エコロジー)、  
辻 信一 (製品評価技術基盤機構)、中地重晴 (環境監視研究所)、  
福井弘道 (慶應義塾大学)、村田幸雄 (WWFジャパン)、安永俊一 (化学工業日報社)

### (選考結果)

(五十音順)



(1件)

・宇部興産株式会社 宇部本社・宇部ケミカル工場



(3件)

・株式会社ガスター(審査員特別賞)  
・武田薬品工業株式会社 製薬本部 光工場  
・凸版印刷株式会社 エレクトロニクス事業本部 新潟工場



(7件)

・京セラ株式会社 鹿児島国分工場  
・京セラ株式会社 鹿児島川内工場  
・埼玉日本電気株式会社  
・株式会社資生堂 久喜工場  
・パナソニックプラズマディスプレイ株式会社 尼崎工場  
・株式会社村田製作所  
・ヤマハ株式会社 掛川工場

PRTR特別賞 (3件)

・岩手県環境保全連絡協議会・岩手県(環境生活部 環境保全課)  
・彩の国環境大学修了生の会 化学物質分科会  
・千葉県(環境生活部 大気保全課)

## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

宇部興産株式会社 宇部本社・宇部ケミカル工場「PRTR大賞2008」 受賞理由

### 化学物質管理について

本社と工場が隣接している立地条件を生かし、各々が一体となって化学物質管理に取り組んでいることが確認できました。

排出量の多い取り扱い物質についてリスク評価を行い、設備投資等を中心として自主的に選定したPRTR対象物質およびVOCの12物質の排出量を、2000年度から7年間で約半分に削減している点が高く評価されました。

### リスクコミュニケーションについて

地域住民とのコミュニケーションは、長らく周辺都市に所在する事業者との共同開催でしたが、意見が通りやすくなるように規模を調整し、独自に継続性のあるコミュニケーションを実施されている点が高く評価されました。

次なる課題として、参加者のレベルの差異を認識されていることから、今後は、参加者の「リスクを理解するレベル」が全体的に向上するよう努められることを期待します。

また、住民からの臭気に関する苦情に対して監視システムを検討し、導入後の報告を果たすなど、コミュニケーションで得られた意見に真摯に取り組む姿勢が確認できました。

---

## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 株式会社ガスター「PRTR優秀賞・審査員特別賞」受賞理由

#### 化学物質管理について

新規化学物質の採用制限や使用化学物質の制限など、基準を明確にして管理を進めていました。また、使用化学物質の安全性については、神奈川県条例による「化学物質の安全性影響度の評価に関する指針」に基づき有害性ランクを把握している点が高く評価されました。

塗装工程からトルエンなどの溶剤が工場周辺に排出され、近隣住民から多くの臭気苦情が寄せられたものの、その原因であった塗装工程を粉体塗装に転換することにより、塗料の使用量を9割以上削減した点については、地域社会を大切にする企業姿勢が感じられました。

#### リスクコミュニケーションについて

最初は勉強会によるコミュニケーションの基礎作り、そしてリスクコミュニケーション、さらにはフォローアップ・コミュニケーションを実施するなど、周辺住民や行政との丁寧な対話を実施されていました。住民と真摯に向き合い、化学物質によるリスクを含めた対話を通じ、これを化学物質管理に活かし、「地域との共生」を推進している点が高く評価されました。

---

## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

武田薬品工業株式会社 製薬本部 光工場 「PRTR優秀賞」 受賞理由

### 化学物質管理について

全社の管理方針に従い、工場の立地条件や業態の特色を生かしながら「環境保全計画」を立案し、実行されています。新規導入施設における環境影響を評価するなど、化学物質管理や排出量削減に努めてこられました。

また、従業員の教育などにも注力されていました。情報公開については、PRTR届出データをウェブ上に公表するなど、地域社会への環境影響を判断する材料を公表されています。

以上のように、全般的に優れた取り組みをされている点が高く評価されました。

### リスクコミュニケーションについて

リスクコミュニケーションマニュアルを作成するとともに、平成3年からモニター制度を制定し、住民とのface to faceのコミュニケーションに取り組んで来られました。また、JRCCのメンバーとしても、地区のリスクコミュニケーションを実施されていました。

今後とも地域社会の環境保全、環境リスクの削減に関して一層地域住民とのコミュニケーションに努められることを期待します。

---

## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

凸版印刷株式会社 エレクトロニクス事業本部 新潟工場 「PRTR優秀賞」  
受賞理由

### 化学物質管理について

事業所の地域特性、製造製品の特性を考慮し、全社が進める環境管理方針からさらに踏み込んだ、事業所独自の化学物質管理が明確な管理方針とともに推進されている点が高く評価されました。

また、取り扱う化学物質の全てをリスト化し、独自の重み付け手法を用いて管理のレベルを設定している点も評価されました。

### リスクコミュニケーションについて

サイト環境レポートを作成し、これをツールとした近隣住民との懇談会が長年に亘り継続されている点が高く評価されました。

また、臭気の苦情に対して排気拡散シミュレーションを実施し、説明会等を設けるなどして対話を重視した地域対応がなされている点も評価されました。

---

## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 京セラ株式会社 鹿児島国分工場 「PRTR奨励賞」 受賞理由

#### 化学物質管理について

全社の管理方針に従い、化学物質管理が行われており、化学物質管理、使用量削減が具体的な目標をもって実践されている点が評価されました。

しかしながら、取組に関する手法と結果が必ずしも明確ではありませんでした。今後は、これらを体系的に整理して公表し、改善の度合いを地域社会と共有することが望まれます。

#### リスクコミュニケーションについて

工場見学、自治会交流会、工場建設説明会、CSR報告会など地域とのコミュニケーション活動が定期的に継続して実施されている点が評価されました。

しかしながら、CSR報告会では参加者の募集をオープンにすることや少しでも化学物質管理に関する情報提供をすることなどについて改善の余地があると考えられます。

---

## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 京セラ株式会社 鹿児島川内工場 「PRTR奨励賞」 受賞理由

#### 化学物質管理について

せんだいがわ  
川内川の水質保全に向けた排水対策に注力するとともに、化学物質管理、使用量削減が具体的な目標をもって実践されている点が評価されました。

この取組の根拠となる環境影響評価について、その手法と結果を公表し、改善の度合いを地域社会と共有していくことが望まれます。

#### リスクコミュニケーションについて

CSR報告会、漁業組合への説明会など、地域とのコミュニケーション活動が定期的に継続して実施されている点が評価されました。

しかしながら、CSR報告会では参加者の募集がオープンにすることや少しでも化学物質や地域の環境リスクの話題に触れることなどについて改善の余地があると考えられます。川内川保全で培ったコミュニケーション力を、さらに深めることを期待します。

---

## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 埼玉日本電気株式会社 「PRTR奨励賞」 受賞理由

#### 化学物質管理について

化学物質の事前審査、収支管理が行われ、従業員教育などしっかりとした管理体制が構築されていました。さらに、製品設計や工程・設備の変更、使用化学物質の変更など多くの努力を通じて、平成19年度には対象事業所の要件を下回るレベルにまで化管法対象物質の取扱量の削減に努められた点が評価されました。

しかしながら、PRTR対象物質を撤廃した経緯や取組内容について、他の事業所に情報発信する上でも、過去に遡ってその取組内容を総合的にお示し頂きたかったと思います。

#### リスクコミュニケーションについて

「環境コミュニケーションの強化」を目標にされており、その取組は多方面にわたりすばらしい成果をあげておられました。

また、2009年1月に予定されている児玉工業団地内の企業が参加する「工業団地環境コミュニケーション」に発展したことも貴社の貢献が大きいと評価されました。

今後とも、このようなコミュニケーションの場の創出に貢献され、特に地域住民との対話を継続して地域住民に親しまれる事業所となることを期待します。

---



## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 株式会社資生堂 久喜工場 「PRTR奨励賞」 受賞理由

#### 化学物質管理について

消費者にとって安全性、環境への影響の点から関心の高い製品を製造していることから、環境汚染の未然防止、環境影響評価等について注意を払いながら実践している点が評価されました。

消費者の関心が高い製品であるからこそ、原材料となる化学物質の有害性情報、採用の考え方や基準、代替に当たったの考え方や基準、具体的な今後の化学物質削減計画とその手法などが詳細に公表されることが望まれます。

また、PRTR届出データをサイト別に公表するなど、地域社会への環境影響を判断する材料となる情報を公表することも望まれます。

#### リスクコミュニケーションについて

埼玉県主催のリスクコミュニケーションに参加し、原材料の有害性、管理方法等について、県民と踏み込んだコミュニケーションを実施した点が評価されました。

今後は、このコミュニケーション結果を踏まえ、地域社会との定期的なコミュニケーション活動に結びつけることを期待します。

---



## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### パナソニックプラズマディスプレイ株式会社 尼崎工場 「PRTR奨励賞」 受賞理由

#### 化学物質管理について

パナソニックグループの方針にもとづき、明確な目標を定めて取り組まれていることが評価されました。

また、化学物質ばかりではなく、幅広く地球環境問題に取り組んでおられることが理解できました。

今後は、代替物質の検討などはリスクの観点から対応されることが望まれます。

#### リスクコミュニケーションについて

清掃活動、森作りフォーラム参加、打ち水大作戦参加、3R推進など地域社会の環境保全に努められている事が理解できました。

今後は、上記の活動に加えて、地域住民を対象に、化学物質に関するリスクの視点を盛り込んだコミュニケーションが開催されることを期待します。

---

## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 株式会社村田製作所 「PRTR奨励賞」 受賞理由

#### 化学物質管理について

製品、工程、労働安全の3つの側面から化学物質管理に取り組み、対象物質の選定・登録やデータベースを利用した排出量、移動量の管理がしっかりと行われていました。

また、VOCやPFCの削減で成果を上げ、自主基準を設けて排水や敷地境界における濃度測定を行うなど、行動指針に示された環境負荷化学物質の削減・代替が確実に実行されていることが評価されました。

今後は、ハザード面ばかりではなく地域の環境リスク低減の視点も含めて、取扱量の削減など、より一層の削減に取り組まれることを期待します。

#### リスクコミュニケーションについて

工場見学、清掃活動、環境学習など地域との協働に取り組まれています。地域住民とのコミュニケーションにまで発展していないようです。

初めから化学物質に関するリスクコミュニケーションを行うのはハードルが高いと考えられますが、まず地域住民の方々と工場の事業活動について率直に語り合える場をつくり、その中で少しでも化学物質、あるいはリスクについて触れることから始められてはいいかがでしょうか。例えば、現在検討されている物質の代替化などを話題に活動を推進されることを期待します。

---

## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### ヤマハ株式会社 掛川工場 「PRTR奨励賞」 受賞理由

#### 化学物質管理について

製造製品が工業製品ではなく、アップライトピアノであることから、塗料や接着剤として使用する化学物質が限定され、容易に代替もきかないという特殊な状況の中、使用量削減に向けて、現場でのきめ細やかな対応がなされていました。

一方で、環境中への排出が多いスチレンについて、地域への影響評価が詳細になされていないなど、今後改善すべき点も見受けられました。

また、全従業員を対象とした、化学物質管理に関する基礎的な教育の実施も望まれます。

#### リスクコミュニケーションについて

地元自治会との交流を長年に亘り継続して実施していました。また、静岡県主催の環境対話集会を実施し、市民との意見交換を実施した点が評価されました。

今後は、これらの経験を生かし、地域社会の環境保全、環境リスクの削減に関する話題まで掘り下げたコミュニケーション活動に発展させることが望まれます。

---

---

## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 岩手県環境保全連絡協議会・岩手県(環境生活部環境保全課)「PRTR特別賞」 受賞理由

平成16年以来、継続して「地域とはじめる環境報告会」を主導し、県内の事業所に化学物質管理等の話題を含めた環境コミュニケーションを定着させた実績が高く評価されました。

この間、環境保全連絡協議会では、セミナーやファシリテーターの養成講座、環境報告書⑤作成研修等を開催し、県内の企業に対して環境コミュニケーションをさまざまな形で支援されてきました。

また、環境報告書が環境コミュニケーションの有力な媒体であると考えた岩手県では、中小企業でも環境報告書が簡便に作成できる「環境報告書⑤作成マニュアル」を製作し、中小企業も含めた環境報告書の作成支援、環境報告会の推進に努力されてきました。

さらに現在は、中小企業向け環境マネジメントシステムのマニュアル作りを進め、企業による環境保全活動を中小企業にまで広げることを予定されております。今後とも、環境保全連絡協議会や地元の市町村、県民、学校、NGOなどと連携して、裾野の広い永続的な環境コミュニケーションが展開されることを期待しております。

---

---

## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 彩の国環境大学修了生の会 化学物質分科会 「PRTR特別賞」 受賞理由

埼玉県が主催する「県民主導型リスクコミュニケーションモデル事業」に、実施期間中の3年間、市民団体として積極的に参加していることが高く評価されました。また、モデル事業終了後も独自に事業者とのコミュニケーションに取り組まれています。さらに、埼玉県化学物質円卓会議の委員に公募され、メンバーとしてご活躍されています。

毎月開催される勉強会においても外部から講師を招いたり、公開講演会を開催して広く県民にも化学物質に関する情報を提供したりと、熱心な取組が確認できました。

機会があるごとに関連イベント等でパネル展示をされ、事業者の取組内容を県民にわかりやすく提供する橋渡し役として活躍されています。現在構築中のWEBサイトが立ち上がれば、さらに充実した活動が展開されるでしょう。

---

---

## 第5回化学物質管理とリスクコミュニケーションに関する表彰

### 千葉県(環境生活部大気保全課)「PRTR特別賞」受賞理由

事業者向けにリスクコミュニケーションモデル事業の支援や、千葉県環境研究センターでの研究成果をもとに他の自治体に先駆けた環境リスク評価手法を開発され、これを活用したガイドブックの作成をされるなど情報提供に力を注がれていました。

また、県民・事業者双方に対してもリスクコミュニケーションモデル事業の取組について周知するためのセミナーを開催されていました。

さらに、県民に向けて、PRTRデータやリスクコミュニケーションの取組事例などを分かりやすく解説した「県民ガイドブック」を編纂したり、データを加工できる検索システムを提供したりされていました。

このように、県民・事業者双方へのさまざまな普及啓発活動をされていることが高く評価されました。

現在は、PRTR制度と密接な関係があるVOC対策を通じて県民・事業者双方への自主的な取組を喚起するような活動をされています。今後も、常に県民・事業者を意識した活動が継続的に展開されることを期待します。

---